

滝 善

チーズ染めの新会社設立

事業譲受し供給網を強固に

尾州産地の糸商、滝の善（愛知県一宮市）は、新会社、市川染工（新瀬五泉市）を設立し、このほど、チーズ染め6月から業務を開始した。



市川染工の工場

取引先の糸染め企業の事業を譲受し、サプライチェーンを強固にした。新会社では二ツト糸だけでなく、織糸や資材向けた異分野の開拓を進める。チーズ染めの市川染工場（同）から全事業の譲渡を受

けた。市川染工場は新型コロナウイルス禍を機に経営環境が悪化する中、事業継続や従業員の雇用維持のためスポンサーを模索。同社の最大の取引先だった滝善に持ち掛け、今回の事業譲渡に至った。新会社の資本金は500万円、社長には滝善の滝宏明専務が就いた。滝氏は「もともと市川染工場とは40年という長い付き合いがあった。事業を譲受することでサプライチェーンを維持し、長い目で見たときに滝善としても伝統的な商売ができて考えた」と話した。市川染工場は1904年創業の老舗で、横

巻かれた内側と外側の糸を編み立てて色の確認作業をする。さらに、染色の進捗（しんちよく）や在庫管理、出荷状況などをデジタル化し、主要取引先とパソコンでつなぎ、工場の見える化も実現している。

新会社では二ツト向けだけでなく、織物向けや衣料以外の資材向けなどの拡大を狙う。滝氏は「滝善と市川染工場は共に1000年企業。経験と知見が

ある両社がグループに「きたい」と意気込む

生み出し、次の1000年に向けて精進していく